

雪と歩く

冬の空、冬の森
記録紙

想像

只見の冬

記憶

観察

たくさんの人が
みえてくれたらいいな

クマタカが
見守ってくれた

おかあさんゆびに
えのぐをつけてえをかくの
たのしかった

空からやってくる雪、地面におりてきた雪、つもった雪の下の雪。只見の冬の雪について、岩田とも子さんといっしょに、観察したり、お話ししました。

雪のことをいつもとはちょっと違う方法で感じて。観察したり。雪ってどんな形してる？どこから来てどこへいくの？



只見町ブナセンターに集合!!



高く積もった雪の上を歩いた先で……



2

只見町ブナセンターの中野陽介さんへ

雪の観察と雪のお話



意外と知らない雪のこと。

雪は空から降ってくる氷の結晶ですが、

上空の温度や湿度によってその形は様々

に変化します。逆に言えば、雪の結晶の形で空の状態を知る

こともできます。降り積もった雪は、時間とともに変化します。

春になると降り積もった雪は溶け出し、地面に染み込み、やがては川になります。地面に染み込んだ水分はブナをはじめとする

植物に利用され、潤った川はイワナなどの魚類の生息場所と

なっています。人間もまた雪が

育むこうした自然環境や野生動

植物の恩恵を受けて暮らして

いるのです。



雪と歩くように
雪を描く

3

雪の観察をしてお話しをきいた後は、歩くようにゆっくりと考えてみたり、記憶をたどってみたり、歩いた先のことを想像したりしながら4つの雪に場面を描こう！透明のアクリル板に白い絵の具。描く道具は手の指。空に足跡をつけるようなそんな感覚で。



アーティストの岩田とも子さん

暮らしの中で
目にした記憶の中の雪、
「もしもみんなが雪だったら・・・
どんな風に空を歩く？」という

想像にゆだねて描いた雪、

みんなで観察した地面に積もった雪。

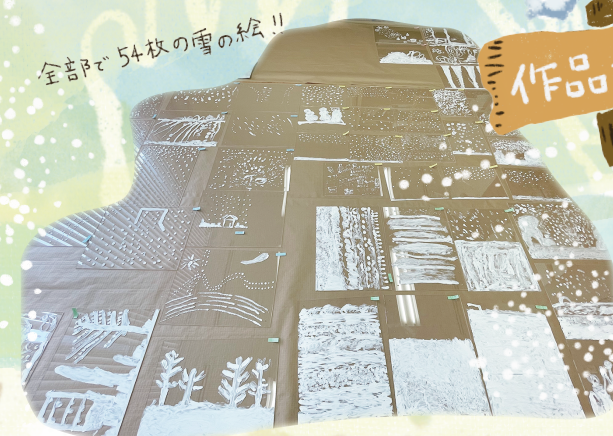
そして最後は溶けた後の雪の旅。

大地に染み渡り大事な水になっていく

雪の物語を描きました。

4

作品が完成



全部で54枚の雪の絵!!

只見駅に展示

只見駅の待合室（ギャラリースペース「只見バウム BAUM」）にみんなの作品を展示しました。

みんなの描いた多様な雪の表現が、
積もるように、巡るように、重なっ
て一つの大きな作品に仕上がりました。

5



雪景色をバックに作品を発表

